

大崎上島中学校 權伝馬体験学習のしおり

權伝馬

まなびや
-海の上の学舎-

大崎上島に伝わる 伝統文化にふれてみよう！

と き 平成21年9月1日（火）2日（水）
ところ 大崎上島町沖浦 沖浦漁港

大崎上島町地域協議会

協力（順不同）： 木江權伝馬保存会
沖浦權伝馬運営委員会
木江權伝馬運営委員会
大崎上島漁業協同組合

はじめに

みなさんは、「ふるさと教育」という言葉を知っていますか。学校教育や家庭教育ではない、自分たちが住んでいる地域の中で地域の皆さんから多くの事を学ぶことだと理解して頂けたらと思います。

昔は、遊びといえば家の中で過ごすことはなく、外で過ごすことがほとんどでした。

この遊びを通じて正しいことは誉めてもらい、間違っていることは叱ってもらおう。そして日常生活の中で地域の人と一緒に物事を考え成長していく。

この「ふるさと教育」のひとつが、「權伝馬」だと考えることができます。静かな海から海の怖さを学び、相手の汗から対人関係を学び、苦しさから自分の弱さと向き合うことを学んでいき、人として成長していき、社会に受け入れられていく。

地域は、人と自然、人と物、人と人が結びついて、独自の雰囲気、風情、たたずまいを生み出しています。そして、そこから地域の魅力と発展の可能性が出てきます。

大崎上島には「心」と「技」が地域の表情としてはっきり見える「物」があります。それは、地域の価値と特色を多く含んでいる「權伝馬」です。

私たちの大崎上島には多くの事を学ばせてくれる、先人達が栄々と守り続けてきた伝統文化があるのです。

今回の体験が、「豊かな自然（海）に囲まれ、郷土文化に恵まれた大崎上島」を再認識し、「ふるさとを誇りに思う心」を育てる貴重な時間になることを願っています。

日 程

9月1日（火）

10:00~12:30 1年生

13:00~15:30 3年生

9月2日（水）

10:00~12:30 2年生

体験学習スケジュール

移 動	大崎上島中学校～沖浦漁港	15分
刈インターリッパ	しおりを利用した学習	10分
	注意事項等伝達	
權伝馬乗船体験	漕法指導ほか	60分
權伝馬競争体験	競争体験	30分
学習のまとめ	感想 意見交換ほか	10分
移 動	沖浦漁港～大崎上島中学校	15分

準備物

体操服 サンドル 帽子 タオル 筆記用具

※海水がかかるかもしれないので着替えがあると良いかもしれません。

History of 櫂伝馬

大崎上島には、祭礼神事に携わる櫂伝馬行事が東野地区、木江地区、沖浦地区で伝統行事として毎年開催されています。

歴史的には小早川備中船手衆の「大崎衆」として登場しますが、その由来については諸説あります。

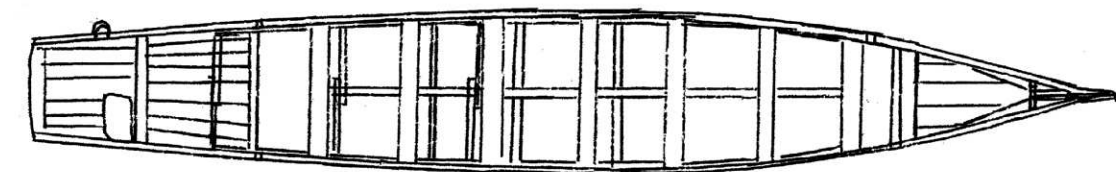
瀬戸内各地方には櫂伝馬行事は数多く残っています。

伝統を守り続けているというのは神事の中の「船渡御」と呼ばれる行事に関わりが深いと思われます。「船渡御」とは御座船と呼ばれる台船に御輿を載せ、お旅所まで櫂伝馬が曳航していくという行事です。このことのために神事にとって櫂伝馬が不可欠であったため現在まで櫂伝馬行事が残っていると思われます。

About 櫂伝馬

櫂伝馬は片舷 7人ずつ14人の漕手により、船尾部の太鼓に合わせて櫂を合わせ、操船する手漕ぎの和船です。船頭（船長）も船尾部に立ち、「大櫂」と呼ばれる大きめの櫂を操り舵を取り、自在に船を操り、乗り手をひとつにまとめます。

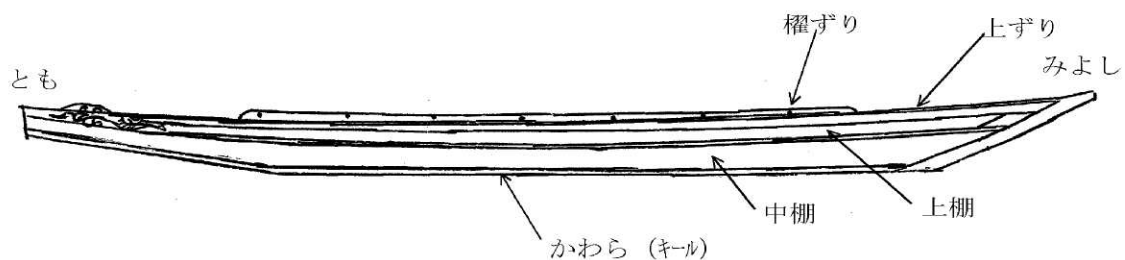
櫂伝馬の構造



平面図

船尾側

船首側



側面図

How to 櫂伝馬

乗船する前に...

櫂伝馬には通常は船尾側から乗り込みます。

栈橋等では側面から乗り込むこともありますが大大きく揺れて危険なため十分な注意が必要です。

乗り込むときは履き物を脱いで裸足になります。靴下等も脱ぎます。

海水がかかり、濡れた櫂伝馬の上では裸足が一番滑りにくいからです。

神事に関わる櫂伝馬は神聖なものという意識が古くからあり、畏敬の念もあって裸足で乗り込むのだということもあるようです。

漕ぎ方の基本

櫂は左右両舷にあります。左舷側は「大櫂（船頭）側」と呼ばれ、櫂の撞木（しゅもく）部分の上側を右手で下側を左手で握ります。こうしたときに櫂に書いてある番号が船尾側、船名が船首側を向くようにかまえます。もう一方の右舷側を「太鼓側」と呼び、かまえたときの手が上下逆になります。

船頭の合図により、太鼓のリズムに合わせて櫂を漕ぎます。

自分より前（船尾側）の櫂に合わせて漕ぎます。

「櫂で漕ぐ」と言うよりも櫂のはねの部分で後方に水を「押す」というのが基本といわれます。

慣れないうちは「櫂さばき」（櫂の操作）がうまくいかず、ほかの漕ぎ手とぶつかったり、迷惑をかけることもあります慣れてくると、櫂の扱いも上達して漕ぎ手の動作がぴったりと合った時には見ても美しく、櫂伝馬の速力も最大となります。漕いでいても非常に楽に感じることができると思います。

競争

練習で培い、努力した成果を発揮するため「櫂伝馬競争」がおこなわれます。

様々な工夫と努力が試され、各地区の人々はその勝ち負けにこだわります。

勝てば「より速く」負ければ反省をしてさらに努力を惜しみません。

このことが古来より守り続けられた伝統と地域文化にほかならないと思います。

乗組員

漕手は「水夫（かこ）」と呼ばれ、櫂を漕ぐ技術もさることながら

櫂の構え、漕ぎはじめから漕ぎ終わりすべての動作をあわせ一体となって

船を少しでも早く推進することに専念します。

太鼓手は漕ぐタイミング（ピッチ）を太鼓によりリード、コントロールして漕ぎ手をひとつにまとめます。

船頭（船長）は櫂伝馬船の最高責任者として乗組員をひとつにまとめ、潮流を読み目的地に向けた最良のコースを選択して競争においてはレースの駆け引きも担う

最も重要な役割を果たします。

ほかに舳先に座り采（さい）を振る「台振り」、太鼓、船頭の後ろに立ち、小型の櫂を振る「剣櫂」の2人を加え18名が櫂伝馬に乗り組みます。

操船の技術

競争において勝利を得るには瀬戸内の複雑な潮流を読み、経験と熟達した技術で船を操り、乗組員の心をひとつにまとめます。

そこに大きな信頼関係が生まれます。

heart & mind of 櫂伝馬

各地区毎に管理される櫂伝馬は競争に勝つために地区をあげて様々の世話をし、工夫を凝らし、ともに汗を流し合います。そこに地区の信頼の絆、世代を超えた人間関係が生まれます。

また 櫂伝馬の船上においてもひとつの目標に向かって、一丸となって取り組むため非常に大きな信頼関係が生まれ、コミュニティが形成されると言っても過言ではありません。このことが「海の上の学舎（まなびや）」と呼ばれる所以かもしれません。

櫂伝馬を漕ぎ、後輩を指導し、世話をすることにより、様々なことを学び、世代を超えた人間関係を築いてきました。このことが地域の伝統を守り、地域を守っていく心を育てていくと思います。

一方、競技として櫂伝馬をとらえたとき大きな分け方として「個人競技」と「団体競技」という分け方をするならば、櫂伝馬は「団体競技」となると思います。

おおまかに言えば、個人競技は「タイム（スピード）」を争うものが多いと思います。また団体競技においては「得点」を争うものが多いと思います。

櫂伝馬競争は団体競技でありながら「スピード」を争うものです。

それぞれの個性と特性を持ち、体格も違い、考え方も違う個人がひとつの目的のために一体となり、競争で勝利を勝ち取ったときの喜びと達成感は何物にも替えがたい連帯感を与えてくれます。

とかく 個性とか個人とかが重要視される昨今ではありますが、今ここの大崎上島に残る櫂伝馬という文化を通して 島がひとつとなり、将来へつなぎ続けていきたいものです。

櫂伝馬を通して 地域を知り、体験し、その心を受け継ぐ「リレーランナー（継承者）」として自覚をし、伝統文化の担い手としてともにがんばっていきたいと思います。

みなさんに次の言葉を贈りたいと思います。

「日々学び教えられる人生、伝えられることは「感謝」のみ」